

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

快晴の新入生歓迎登山

大町高校の山岳部は今年は新入生5名(男子3、女子2)を加え、13名となった。25、26の両日早速盛大な歓迎会を実施。25日は焼き肉とテント生活の体験を、26日は日帰りで大町高校ゆかりの山である鍬ノ峰に登った。

鍬ノ峰については、すでにかわらばんでも紹介しているように昨年度の日本山岳遺産基金認定で、整備作業にも大きな援助をいただいていたの新たな年度の出発である。今回は歓迎登山も兼ねながら、新入部員にこの山の意味を知ってもらうということを主眼におき、7月に行う本格的な整備作業の準備という意味合いで山行を計画した。

雲一つない快晴の空の下、7時に学校を出発。途中の登山道の状況を確認しながら登った。松田大さんにも同行してもらい、途中途中で開拓当時の苦労話やエピソードを話してもらいながらの登山。1年生のみならず上級生にも伝統を伝えるいい山行となった。

途中では「イワウチワ」の大群落がちょうど花盛り。上部の雪が解けた辺りからは、咲き始めたばかりの「ショウジョウバカマ」が迎えてくれた。「次回作業時には、この木を伐らないと邪魔だ」とか、「ここはロープの補修や追加が必要だ」、あるいは「去年の笹刈りのおかげでは今年は楽そうだ」などと話しつつ、およそ2時間半のアルバイトで10時30分には山頂に到着した。我々の到着したときには高崎から来たという高年のご夫婦が一组だけだったが、その後次から次へと登山者が登って来た。

この時期にこれほどの人(大町高14名+一般登山者12名)が登っているとはちょっと驚きだったが、天気がよい時は、鍬ノ峰は素晴らしい展望台だ。陽気もよくなり、日帰りハイキングにはちょうど良い。山岳遺産のニュースを知り、登って来たという地元松川村の男性、この年にしてこんな素晴らしい景色に出会えたという3人組の高年の女性など県内外の大勢の人で、狭い山頂は覆いつくされた。



快晴の空の下、頂上で後立山をバックに山岳部歌を歌う

そんなギャラリーの前で、蓮華・白馬をバックに恒例の「山岳部歌」を歌った。全然気づかずにいたのだが、帰り際、お子さん連れの家族5人のお母さんから「大西先生ですか?」と声を掛けられて振り返ると、昨年まで大町北高におられたN先生だった。ちょっと吃驚。

・・・7月には、第2回目の整備登山をしようと思っている。花芽があまりついていなかったの、今年はそのほど期待できないかもしれないが、そのときは「シクナゲ」が迎えてくれるはずだ。

ネパールの惨状が気になります

4.25 に発生したネパールの大地震、その後の惨状が気になります。鍬ノ峰に登っているときにも色々な方から電話が入ってきました。

首都カトマンズは急速な都市化にインフラ整備が追いついていないし、農村部を繋ぐ道は普段からがけ崩れなどがあり、実際僕が訪れたとき（2005年）も、何箇所かで工事中。カトマンズは慢性的な交通渋滞と車や家庭からの煤煙でスモッグが立ち込め、一步そこを出ると、急な斜面に天にも続くかと思うような段々畑が切り開かれ、そこにへばりつくように人々が生活している。建物は粗末なものが多く、揺れにはひとたまりもないだろうことは、容易に想像できる。しかし、そこに住む人々は素朴で、美しい自然は私たちの心の故郷ともいえるべく郷愁を誘う。ヒマラヤを擁するネパールは何と言っても我々の憧れの地であることは、変わることがない。

長野県山岳協会はネパール山岳協会と友好協定を結んでおり、ネパールに移住している友人もいる。ネパールはモンスーン前の今が、登山のハイシーズンでもあり、わかっただけでも3人の友人がネパールに出かけていた。幸い彼らの無事は確認できてほっとしているところだが、登山者を含む多くの人が今なお救出を待っているのが現状だ。

現地の何人かにお見舞いのメールを送ったが、現地の状況は伝えられている以上に深刻なようだ。ネパールコスモトレックの大津昭宣さんのメールによれば、「カトマンズ旧市街は全滅、また、山岳地方ではエベレストで20人以上、ランタン谷で250名がそれぞれ雪崩、土砂崩れで生き埋めとの情報もある。」というし、ネパール山岳協会会長のアン・ツェリン・シェルパさんからは「The avalanche that happened on Everest after the earthquake took the lives of 14 Nepalese Sherpa Climbers and 5 foreign climbers leaving 65 people injured. All the injured people have been rescued and being treated in different hospitals of Kathmandu. The speedy and coordinated rescue operation helped from the loss more human lives. Also 180 climbers at CI and CII are already evacuated to Base Camp on 27 April and they are all fine..」とエベレスト地方の登山者の状況が伝えられている。しかし、一方で「We already evacuated many stranded climbers and trekkers from various regions. We would like to kindly request you to share information about the people stuck in any region. It will help us to conduct rescue operation in a quick manner. We are trying to gather detail information on avalanche on Everest and earthquake affected mountain areas to prepare a comprehensive, which will be sent to you after it is prepared.」ともあり、エベレスト以外の山岳地域での孤立した登山者が多くいることや、混乱した状況の中で山岳協会も情報収集がままならない現実も伝えてきている。

同じ地震国に住む者として、まさに神々の座ともいえるべきあの美しいヒマラヤのふもとの町に住む人々に山仲間として何かできることはないのだろうか。遠くから思いを馳せることしかできないのがなんとももどかしい。長野県山岳協会としては、2005年のパキスタンでの大地震、2008年の中国四川省大地震のときにも山仲間として募金活動をして、当地の山岳協会へ送った。今回も長野県山岳協会として、義援金募金活動などを通して、少しでも気持ちを届けたい。色々ところで募金活動をしているとは思いますが、長野県山岳協会としての募金活動について、下に添付するので、ご覧の上、ご賛同いただける方は、ご協力ください。

2015年5月1日

登山を愛する山仲間の皆様へ

「ネパール地震」義援金募金のお願い

長野県山岳協会
会長 唐木真澄

1. 趣旨

4月25日ネパールにおいてマグニチュード7.8の巨大地震が発生しました。30日現在死者は5700人を超え、国連はネパールの人口の3割を越す800万人が被災したと発表しています。また、登山のベストシーズンでもあり、シェルパ、登山関係者も多く被災されています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。現地では余震や雨、山間地である被災地域への道路の寸断など厳しい条件の中、懸命な救助活動と復旧活動が続けられています。

長野県山岳協会とネパール山岳協会は、1964年のギャチュンカン登山以来、2005年には友好協定を締結し、トレッキングや記念登山等多くの交流を重ねてきました。世界の屋根ヒマラヤを擁するネパールは、今後も我々山仲間にとっては、憧れの地であることには変わりありません。

長野県山岳協会では、負傷者の回復と被災地の復旧を願い、山仲間として、ネパール地震被災者の支援のため義援金の募集を行わせていただくことといたしました。皆様からお預かりした義援金は、長野県山岳協会が責任をもって、ネパール山岳協会等を通じて現地に届け、被災者の支援に役立てていただくこととします。またご協力をいただいた皆様のご芳名は、長山協ニュース「やまなみ」ならびに「ホームページ」でご報告させていただきます。

登山を愛する皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

2. 主催および実施主管

長野県山岳協会

3. 募集期間

2015年5月1日から6月20日まで

4. 募金額

特に定めません。お気持ちをお寄せください。

5. 義援金の受付方法

(1) 義援金は、原則として下記の口座への振込みでお願いします。

①銀行名 八十二銀行 信州大学前支店 (店番号) 421

口座番号 普通 680297

口座名義人 長野県山岳協会事務局長大西浩

備考 この口座への振込みについては、振込み手数料は無料となりません。

振込み者においてご負担いただきますようお願いいたします。

また、この義援金は税法上の優遇措置の対象ではありませんので、ご了承ください。

(2) 現金書留及び現金による受付

現金書留で協会事務局にお送りいただくか、協会理事にお渡しいただいても構いませんが、原則として口座振込みで募金いただくようお願いいたします。

7. 義援金の使途

「長野県山岳協会」名で「ネパール山岳協会」等を通じて現地に届け、被災者の支援にあてていただきます。

会計は、長野県山岳協会ニュース「やまなみ」及び「ホームページ」で報告いたします。

長野県山岳協会 事務局

事務局長 河竹 康之

長野県山岳協会事務局

〒399-0701 塩尻市広丘吉田 3359 サーパス広丘 507 河竹康之方

電話&FAX 0263-57-0787

Eメール jimukyoku@nmaj.org

長野県山岳協会・ネパール山岳協会 友好山岳協会 協定書

日本アルプスに囲まれ、日本の屋根とも称される長野県。
世界最高峰のエベレストを初めとする、ヒマラヤの高峰に囲まれた山岳国ネパール。

長野県山岳協会とネパール山岳協会は、高さこそ違うものの魅力的な山々を持つ点をはじめとして、様々な共通点を持っています。

長野県山岳協会とネパール山岳協会のつながりは、1960年代にまでさかのぼることができます。以来半世紀近くにわたり、両山岳協会は、スポーツとしての登山と自然を尊ぶ人々の心を向上させることに大きな努力をしてきました。

21世紀を迎え、創造的な登山活動をますます発展させていくために、長野県山岳協会とネパール山岳協会が、友情を深め、相互の理解を促進させていくことは非常に意義深いことです。

その上に立って、双方の山岳協会は、今後両国が行う登山や登山技術交流等を協力して推進することで、さらに深い友好関係を構築してゆけるものと確信します。

長野県山岳協会とネパール山岳協会は、澄んだ空に聳える高峰のもとで友好協会協定を結び、手を携えて共に努力してゆくことを表明します。

協定書は2005年1月10日にネパールカトマンズで署名されるものとします。

2005年1月10日

長野県山岳協会 会長

柳澤昭夫

ネパール山岳協会 会長

Apapa

